

算数は、系統理解に努めよう。わり算

6 ÷ 2 = 3 を考える・・・	
「メロンが6こあります。1箱に2こずつ入れていくと、箱はいくつできるでしょう。」	「メロンが6こあります。2人で同じように分けると1人分はいくつになるでしょう。」
6 ÷ 2 = 3 答え 3箱(3つ)	6 ÷ 2 = 3 答え 3こ
「6の中から、2が3回とれる。」という意味。 	「6を同じように2つに分けると、3ずつになる。」という意味。 
[意味] 何回とれるか (包含除)	[意味] ~つに分ける (等分除)
次に、小数が出てきても、考えを進めていけるよう、連続量で考えていく。 また、意味が分かりやすくなるように、式の中に単位 (k g) を書き入れる。	
「6 k g の砂糖から、2 k g 入りの砂糖ふくろが何こ作れるか。」	「6 k g の砂糖を同じように2つのふくろに分けると、ひとつのふくろに何 k g 入るか。」
6 k g ÷ 2 k g = 3 答え 3こ	6 k g ÷ 2 = 3 k g 答え 3 k g
次に、数字を小数にして考えていく。	
「8.5 k g の砂糖から、2.5 k g 入りの砂糖ふくろが何こ作れるか。」	「8.5 k g の砂糖を同じように 2.5 このふくろに分けると、ひとつのふくろに何 k g 入るか。」
8.5 k g ÷ 2.5 k g = 3あまり1 k g 答え 3こできて1 k gあまる	8.5 k g ÷ 2.5 = 3.4 k g 答え 3.4 k g
わり切れるまで計算すると 8.5 k g ÷ 2.5 k g = 3.4 答え 3.4こ	計算すると 答えが3.4 k gとなるが、2.5このふくろに分けるって、どういうこと？
ふくろが3.4こできるって、どういうこと？	
意味が分かりにくくなる。これは、小数のわり算では、わり算の意味を「何回とれるか」や「~つに分ける」と考えることに限界があるからだ。・・・そこで・・・	
意味を広げて考える。 多面的に考える。 切り口を変える。	
「6 k g は2 k g の何倍になっているか」 ・・・求める式は	「2 L の砂糖があります。重さは6 k g です。この砂糖1 Lの重さは何 k g でしょう。」 ・・・求める式は
6 k g ÷ 2 k g = 3	6 k g ÷ 2 = 3 k g
これは、上に出てきた式と同じ式。 (「k g」がついている場所が同じ) 「何回とれるか」の意味を広げて、下のように考える。	これは、上に出てきた式と同じ式。 (「k g」がついている場所が同じ) 「~つに分ける」は視点をかえて、下のように考える。
[意味] 何倍になっているか	[意味] 1あたりの量を求める
このように考えると、小数の場合でも意味がはっきりする。	
「8.5 k g は、2.5 k g の何倍ですか。」	「2.5 L の砂糖があります。重さは8.5 k g です。この砂糖1 Lの重さは何 k g でしょう。」
8.5 k g ÷ 2.5 k g = 3.4 答え 3.4倍	8.5 k g ÷ 2.5 = 3.4 k g 答え 3.4 k g
わり算はかけ算の逆の計算なので、かけ算になおして整理してみる。	
2.5 k g × □ = 8.5 k g	□ k g × 2.5 = 8.5 k g
かけ算になおすと、かける数をもとめていることが分かる。	かけ算になおすと、かけられる数をもとめていることが分かる。

わり算の意味を「何回とれるか」「~つに分ける」という2つの他に、「何倍になっているか」「1あたりの量」も含めて整理しておくようにしましょう。